

SPECIAL EXHIBITION TSUTAYA JŪZABURŌ: CREATIVE VISIONARY OF EDO

特別展 葛屋重二郎 コンテンツビジネスの風雲児

PRESS RELEASE



『青楼美人合姿図』(部分) 北尾重政・勝川春章画 安永5年(1776) 東京国立博物館蔵 [通期展示 ※会期中、真替えを行います]

2025 4.22 TUE ▶ 6.15 SUN

TNM 東京国立博物館 平成館
TOKYO NATIONAL MUSEUM (UENO PARK)

特別展

「蔦屋重三郎 コンテンツビジネスの風雲児」

江戸時代の傑出した出版業者である蔦重こと蔦屋重三郎（1750～97）は、喜多川歌麿、東洲斎写楽といった現代では世界的芸術家とみなされる浮世絵師を世に出したことで知られています。本展ではその蔦重の活動をつぶさにみつめながら、天明、寛政（1781～1801）期を中心に江戸の多彩な文化をご覧ください。

蔦重は江戸の遊郭や歌舞伎を背景にしながら、狂歌の隆盛に合わせて、狂歌師や戯作者とも親交を深めるなど、武家や富裕な町人、人気役者、人気戯作者、人気絵師のネットワークを縦横無尽に広げて、さまざまな分野を結びつけながら、さながらメディアミックスによって、出版業界にさまざまな新機軸を打ち出します。

蔦重はその商才を活かして、コンテンツ・ビジネスを際限なく革新し続けました。そこに根差したものは徹底的なユーザー（消費者）の視点であり、人々が楽しむもの、面白いものを追い求めたバイタリティーにあるといえるでしょう。

この展覧会では、蔦屋重三郎を主人公とした2025年の大河ドラマ「べらぼう～蔦重栄華乃夢嘶～」(NHK)とも連携し、江戸の街の様相とともに、蔦重の出版活動をさまざまにご覧いただきながら、蔦重が江戸時代後期の出版文化の一翼を担っていただけでなく、彼が創出した価値観や芸術性がいかなるものであったかを体感いただきます。

HIGHLIGHTS

見どころ

1. 本を、人を、時代をプロデュースした蔦重の全体像

多彩な出版活動を通し、人々が楽しむものを追い求め続けた蔦屋重三郎。その活動をみつめれば、「本」のみならず、優れた作者を育て、時代そのものをつくり上げた手腕が浮かび上がります。本展では蔦重の全体像を約250作品でご紹介します。

2. 歌麿・写楽のあの作品も、じつは蔦重仕込み

蔦重は喜多川歌麿、東洲斎写楽をはじめとする名だたる絵師を発掘し、その魅力を最大限に生かした浮世絵を企画・出版しました。浮世絵黄金期と呼ばれる18世紀末の浮世絵界を代表する名品が一堂に揃います。

前期展示：4月22日～5月18日 後期展示：5月20日～6月15日

3. 大河ドラマ「べらぼう～蔦重栄華乃夢噺～」(NHK)との連携

2025年放送の大河ドラマ「べらぼう～蔦重栄華乃夢噺～」と連携し、大河ドラマの世界を展覧会で再現。蔦重が活躍した頃の江戸の街にタイムトリップしたような空間をお楽しみいただきます。

人と人をつなぐ江戸の敏腕プロデューサー
蔦屋重三郎とは



「蔦重」こと蔦屋重三郎（1750～97）は、江戸時代も後半にさしかかろうとする頃、貸本業から身を起し、社会状況の変化をつぶさにとらえ、まさにメディア王にのぼりつめました。

浮世絵師のなかでも、とくに名高い歌麿や写楽を見出し、プロデュースしたことで知られています。また黄表紙や洒落本といった文芸のジャンルでも、時流をつかみ、数々のベストセラー作品を生み出しました。敏腕プロデューサーであり、稀代のマーケターでもあったといえます。彼は、まさに時代の風雲児といってよいでしょう。

CHAPTER

吉原細見・洒落本・黄表紙の革新

葛屋重三郎は寛延3年（1750）、幕府公認の遊郭である吉原の地に生まれました。彼の出版人としての活動は、その吉原の情報誌『吉原細見』の出版に携わるところから始まります。葛重はすぐさま優れた手腕を発揮し、富本正本や往来物といった定番商品、さらには人気の作者や絵師を抱えて戯作の出版に乗り出しました。

風刺や滑稽を織り交ぜた黄表紙や洒落本は大衆の心をとらえ、朋誠堂喜三二や恋川春町、山東京伝ら才子の傑作を世に送り出します。

リアルな存在としての遊女の姿がここに

『青楼美人合姿鏡』北尾重政・勝川春章画

彩色摺大本 安永5年(1776) 東京国立博物館蔵【通期展示 ※会期中、頁替えを行います】

葛重が企画、出版した絵本で、当代きっての人気浮世絵師・重政と春章が競作した。各妓楼の遊女たちが、季節ごとに琴や書画や香合、すごろく、投扇興といった芸ごとや、座敷遊びに興じる姿を描き出している。描かれた遊女や妓楼が出版経費を負担して、得意客への贈答品、あるいは宣伝のために用いられたのだろう。



『雛形若菜初模様 丁子屋内ひな鶴』磯田湖龍齋筆
大判錦絵 安永4年(1775)頃
東京国立博物館蔵【前期】

100点をこえる大シリーズで、明和期から安永、天明期に活躍した湖龍齋の代表作。「若菜初模様」は正月の着物の柄を、「雛形」は見本帖を意味し、禿二人を連れた各妓楼自慢の遊女を艶やかに描き出す。吉原に精通する駆け出しの葛重は、この大型企画の制作過程で、遊女に関わる情報提供者として、大店の西村屋に登用されたとも考えられている。

盟友・山東京伝作
出版統制にめげない葛重の姿がここに



『箱入娘面屋人魚』山東京伝作

墨摺小本 寛政3年(1791) 東京国立博物館蔵
【通期展示 ※会期中、頁替えを行います】

大人向け読み物で、江戸で流行した「黄表紙」（絵入り小説）の一点。おとぎ話「浦島太郎」の後日譚をストーリーとする荒唐無稽なパロディ。人気戯作者・京伝の作で、序文に葛重自身が登場して、「まじめなる口上」を寄せ、寛政元年（1789）に取締りにかかり、過料を申しつけられたため、筆を折ろうとした京伝に無理を言って筆を執らせたと述べている。

情報網を駆使した美人画シリーズ

CHAPTER

2 狂歌隆盛

—— 蔦唐丸、文化人たちの交流

天明期（1781~89）を中心に、江戸では狂歌が爆発的な人気を博します。武士や町人、役者や絵師ら様々な階層の人が集まり、江戸を謳歌する狂歌を詠み、遊び戯れたのです。

蔦重はそこに、狂歌師「蔦唐丸」として参入します。しかし彼の関心はクリエイターとしての文芸活動にとどまりません。四方赤良（大田南畝）や唐衣橋洲、朱楽菅江ら当代一流の文化人たちとの交流のなかで、狂歌集、狂歌絵本を一手に刊行するプロデューサーとして商才を発揮し、江戸文化の発信源となります。

歌麿の驚異的な写実描写



『画本虫撰』
宿屋飯盛撰／喜多川歌麿画
彩色摺大本 天明8年(1788)
千葉市美術館蔵【前期(後期は別本を展示)】

狂歌のグループ・連が詠んだ狂歌集に、歌麿が絵を添えた狂歌絵本。「虫」をテーマに詠まれた狂歌に、昆虫など小動物が季節ごとの草花に取り合わせて描かれている。海辺の貝を詠んだ『潮干のつと』と鳥をテーマにした『百千鳥狂歌合』ともに三部作として知られ、いずれも歌麿が精緻で、写実を極めた生き物たちの描写が傑出している。天明期におこった江戸の狂歌ブームの中で、蔦重は歌麿という飛び抜けた描写力を持つ絵師をここに見出したのだった。

はさみむし・けら

重要文化財「エレキテル」平賀源内作
江戸時代・18世紀 郵政博物館蔵
【前期(後期は複製を展示)】

源内はオランダから伝わった摩擦起電機・エレキテルを自力で製作し、大名屋敷などで見世物にしたり、病氣治療のために使った。源内は西洋技術を日本に紹介した先駆者で、多くの分野で活躍した。発明家として知られるほか、学者として博覧会を開催し、浄瑠璃本を執筆するなど、文芸にも大きな足跡をのこしている。蔦重が初めて自ら出版した『吉原細見』に序文をよせている。



マルチクリエイター 平賀源内

CHAPTER

浮世絵師発掘

——歌麿、写楽、 栄松齋長喜

寛政期（1789~1801）、葛重は浮世絵界に進出します。喜多川歌麿、東洲斎写楽、栄松齋長喜といった名だたる絵師たちを発掘し、彼らの魅力を最大限に生かした浮世絵を企画・出版しました。

葛重版の作品を特徴づけるのは、人物の顔を大胆にクローズアップした「大首絵」の構図です。この手法により、歌麿はあらゆる年齢や階層の女性の心情を描き分け、写楽は歌舞伎役者の個性をとらえました。今を生きる人々の内面を映し出した錦絵は、版元・葛重の、そして浮世絵の人物表現の一つの到達点を示しています。

声をかけられた瞬間 振り返る町娘の二瞬



「婦女人相十品 ポップンを吹く娘」喜多川歌麿筆
大判錦絵 寛政4~5年(1792~93)頃 東京国立博物館蔵【前期】

淡く光る雲母（キラ）を摺り込んだ背景に、市松模様の華やかな着物の色の取り合わせが、町娘の華やかさをいっそう際立たせている。ポップンというガラス細工のおもちゃを口にした町娘がふいに声をかけられ、ふり返った瞬間のスナップショット。歌麿は「大首絵」で、女性の顔や半身を大きくとらえ、その表情やしぐさで、その心持ちを余すところなく描き出した。

美人大首絵に描かれる“心の綾”



「歌撰恋之部 物思恋」喜多川歌麿筆
大判錦絵 寛政5~6年(1793~94)頃
江戸東京博物館蔵【後期】

淡い紅の雲母摺りを背景に、歌集の部立て（部類）の「恋」をテーマとして、さまざまな年齢や境遇の女性を美人大首絵でとりあげたシリーズ。恋の多様な姿を表情やしぐさで描き分けている。この女性は、目を細めて遠くをみつめ、頬杖をつき物思いに耽ける、袖から露わになった腕の白さが艶めかしい人妻（眉を剃っている）。道ならぬ恋の内面をこの絵1枚で知ることができる。

江戸の看板娘の目を引く後ろ姿



「姿見七人化粧」喜多川歌麿筆
大判錦絵 寛政4~5年(1792~93)頃
東京国立博物館蔵【後期】

大きな鏡を前に髪に手をやり、びん直しをする娘。無心に鏡をのぞきこむ女性の襟足の細やかさをみれば、彼女の後ろ姿に絵師の目が強く向けられていることがわかる。背景を省いて髪や着物、鏡の枠に黒を効かせ、鏡の枠の上下で幅を変え歪ませることで、二次元世界に奥行きを感じさせている。卓越した歌麿の表現力をみせつけている。モデルは着物の紋の形から、浅草隨身門脇にあった水茶屋難波屋の評判娘・おきた(当時16歳頃)といわれている。

「大坂新町東ノ扇屋 花扇太夫」栄松斎長喜筆
大判錦絵 寛政期(1789~1801)
東京国立博物館蔵【後期】

長喜は、半ば専属絵師であった歌麿が葛屋を去った後、葛重が新たに推し出した浮世絵師である。歌麿と同門で鳥山石燕に学び、歌麿美人画の影響下にあるが、長喜はとくに京阪の芸妓をとりあげた。長喜は、この大坂新町の太夫(最高位の遊女の呼称)扇太夫のように、極端に肩幅の狭い「こけし」のような女性を描き、江戸の遊女にはない可憐さ、たおやかさを強調する。葛重は美人画の新しいトレンドを、長喜によって打ち出そうとしたのである。

江戸の遊女にはないたおやかさ



歌麿のリァリティ表現の髄 繊細で優美な筆使い



『歌まくら』(部分) 喜多川歌麿画
横大判錦絵折帖 天明8年(1788)
浦上蒼穹堂蔵【前期(後期は別本を展示)】

葛重の企画出版とされる春画本で、歌麿畢生の作。12枚の横大判の錦絵で修羅場あり、駆け引きありのさまざまなシチュエーションで、男女の細やかな機微が描き出されている。秀美を誇るのがこの茶屋の二階で忍ぶ恋で、女性は後ろ姿で表情がわからないが、女の髪の下からちらりとのおぞく男の目は、もうすっかり醒めている。

着物を脱ぎ払う瞬間! いざお立ち会い



重要文化財「三代目大谷鬼次の江戸兵衛」東洲斎写楽筆
大判錦絵 寛政6年(1794) 東京国立博物館蔵【前期】

寛政の改革で痛手を負った葛重は、役者大首絵で起死回生をはかる。無名の新人絵師・写楽が夏興行に合わせ、寛政6年5月に一挙28枚の大首絵を刊行して浮世絵界の度肝を抜いた。背景の黒雲母摺りで暗い舞台に映える役者を「あまりに真を描かん」とリアルに描き出している。「恋女房染分手綱(こいにょうぼうそめわけたづな)」に取材したこの1枚は、用金(ようきん)を奪わんとする江戸兵衛を描いたもので、殺気がみなぎっている。

役者の個性をありのまま写す



重要文化財「市川鍛蔵の竹村定之進」
東洲斎写楽筆

大判錦絵 寛政6年(1794)
東京国立博物館蔵【後期】

寛政6年5月河原崎座で上演された「恋女房染分手綱」に取材した1枚。前半の山場「道成寺」の主役である能指南役の竹村定之進は、不義の娘の身代わりとなって切腹する。鍛蔵は五代目市川團十郎の改名で、当代随一の名優。この時期を代表する役者自身の彫りの深い顔の特徴が堂々とした風格を醸し出している。写楽は役より「役者」そのものを実感的に描き出しているのである。



市中の度肝を抜いた嘘なき絵

重要文化財「二代目瀬川富三郎の
大岸蔵人妻やどり木」東洲斎写楽筆
大判錦絵 寛政6年(1794)
東京国立博物館蔵【前期】

寛政6年5月都座で上演された元禄14年(1701)に起きた「亀山の仇討ち」を脚色した「花菖蒲文禄曾我(はなあやめぶんろくそが)」に取材したもので、第一幕の石井源蔵の祝言の場面といわれている。女形として活躍した二代目・瀬川富三郎は面長で口が小さく、あごが出てえらの張った顔立ちで「にく富」や「いや富」とあだ名された。写楽はまさに役者自身の個性をあらぬ様に描き出している。

SUPPLEMENT

天明寛政、江戸の街

附章

多くの戯作や狂歌、浮世絵の舞台となった「江戸」は、どのような街だったのでしょうか。18世紀後半は経済や文化が成長し、大江戸と呼ぶべき魅力あふれる都市へと発展した時期にあたります。

この章では蔦重が活躍した天明・寛政期の江戸の街を再現展示でお楽しみいただきます。



江戸の街、再現



※画像はイメージ

大河ドラマ「べらぼう～蔦重栄華乃夢噺～」

NHKで毎週日曜放送中

[総合] 日曜 午後8時 [BS、BSP4K] 日曜 午後6時 [BSP4K] 日曜 午後0時15分



ないない尽くしの生まれから
「江戸のメディア王」として時代の寵児に！
蔦重こと蔦屋重三郎の波乱万丈の生涯。

【作】森下佳子 【主演】横浜流星（蔦屋重三郎 役）

蔦屋重三郎関連年表

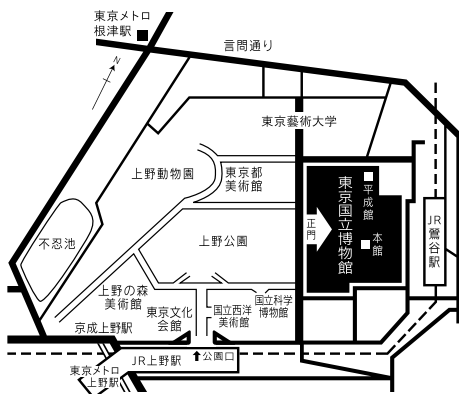
年号	蔦屋重三郎関連事項（年齢は数え）	社会・政治事項
1750 寛延三年	正月七日、父・丸山重助、母・廣瀬津与との間に生まれる。	
1756 宝暦六年頃	七歳の頃、両親と離別。 喜多川という商家（屋号は蔦屋）に養子として引き取られる。	
1760 宝暦十年		徳川家治、第十代将軍就任。
1767 明和四年		田沼意次、側用人となる。
1768 明和五年		上田秋成著『雨月物語』序「明和戊子晩春」。
1772 明和九年／ 安永元年		田沼意次、老中を兼任。 目黒行人坂火事。
1772 安永元年	二十三歳。吉原五十間道に、蔦屋次郎兵衛の軒先を借り、店を構える。	
1774 安永三年	版元・鱗形屋孫兵衛の『吉原細見』の改めや卸し、小売りを請け負う。 七月、版元として初の出版物となる遊女評判記『一目千本』を刊行。	
1775 安永四年	二十六歳。自身初の自主出版となる吉原細見『籬の花』を刊行。 「雛形若菜初模様」の共同出版に関わる。	恋川春町作画の黄表紙『金々先生栄花夢』出版。
1776 安永五年	『青楼美人合姿鏡』を出版。	平賀源内、破損していたエレキテルを修理し復元に成功。
1777 安永六年	二十八歳。この頃独立し、五十間道に自分の店を構える。大田南畝らと親交を深める。洒落本『娼妃地理記』を刊行。浄瑠璃・富本節の正本、稽古本を出版。	
1779 安永八年		桜島大噴火。
1780 安永九年	黄表紙、往来物を出版する。	
1781 安永十年／ 天明元年	朋誠堂喜三二の黄表紙『見徳一炊夢』を刊行、大田南畝の絵草紙 評判記『菊寿草』で最高位に評される。	
1782 天明二年		天明の大飢饉。冷害や火山の大噴火により、 大凶作がおこり、天明七年にかけて発生。
1783 天明三年	三十四歳。吉原細見『五葉松』を刊行、『吉原細見』の独占出版となる。 九月頃、日本橋通油町に進出、店を構える。実父母を迎えて養う。	浅間山大噴火。
1786 天明六年	狂歌絵本を刊行。	将軍徳川家治、死去。田沼意次、失脚。
1787 天明七年		徳川家斉、第十一代将軍就任。 松平定信が老中首座に就任。寛政の改革はじまる。
1788 天明八年	三十九歳。朋誠堂喜三二の黄表紙『文武二道万石通』を刊行。 喜多川歌麿画の狂歌絵本『画本虫撰』を刊行。	
1789 天明九年／ 寛政元年	恋川春町の黄表紙『鸚鵡返文武二道』を刊行、大ヒットとなるが、 松平定信の文武奨励策を批判したものとされ、目をつけられる。	七月、恋川春町逝去。思想・言論統制が敷かれ、 諷刺や批判に幕府の締付けが厳しくなる。棄捐令。
1791 寛政三年	四十二歳。三月、山東京伝の『仕懸文庫』『錦之裏』『娼妓絹籠』が摘発され、 京伝は手鎖五十日、重三郎も身上半減の罰を受ける。書物問屋仲間に参加。	
1792 寛政四年	喜多川歌麿の美人大首絵「婦人相学十躰」「婦女人相十品」を出版。 この頃から徐々に美人画、役者絵の出版に乗り出す。	
1793 寛政五年		七月、松平定信、老中退任。
1794 寛政六年	四十五歳。五月、東洲斎写案の役者大首絵二十八枚を一挙に刊行。	
1797 寛政九年	『身体開帳縁起』を刊行、五月六日、「江戸患い（脚気）」により逝去。 東浅草の日蓮宗寺院正法寺に葬られる。享年四十八。	

開催概要

展覧会名	特別展「蔦屋重三郎 コンテンツビジネスの風雲児」
英語展覧会名	Special Exhibition <i>Tsutaya Jūzaburō: Creative Visionary of Edo</i>
会期	2025年4月22日(火)～6月15日(日)
休館日	月曜日、5月7日(水) *ただし、4月28日(月)、5月5日(月・祝)は開館
開館時間	午前9時30分～午後5時 *毎週金曜・土曜日、5月4日(日・祝)、5日(月・祝)は午後8時まで開館 *入館は閉館の30分前まで
会場	東京国立博物館 平成館
主催	東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション
後援	台東区、中央区
協賛	SGC、NISSHA
お問合せ	050-5541-8600 (ハローダイヤル)
展覧会公式サイト	https://tsutaju2025.jp/
展覧会公式X	@tohaku_edo2025
展覧会公式Instagram	@tohaku_edo2025



*会期中、一部作品の展示替えを行います。
*展示作品、会期、展示期間、開館時間、休館日等については、今後の諸事情により変更する場合があります。
最新情報は展覧会公式サイト等でご確認ください。



東京国立博物館 平成館
(上野公園)
TOKYO NATIONAL MUSEUM (UENO PARK)

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9
東京国立博物館ウェブサイト <https://www.tnm.jp/>

- JR上野駅公園口・鶯谷駅南口より徒歩10分
- 東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅、千代田線根津駅、京成電鉄京成上野駅より徒歩15分

放送! 年 ひとりを思う、みんなのメディアへ。

報道関係お問合せ

特別展「蔦屋重三郎 コンテンツビジネスの風雲児」

広報事務局(共同PR内) 担当:三井、瀬島

E-mail: tsutaju2025-pr@kyodo-pr.co.jp TEL: 03-6264-2382

TICKETS

チケット

	前売券(税込) 販売期間：2025/2/13～4/21	当日券(税込) 販売期間：2025/4/22～6/15
一般	1,900円	2,100円
大学生	1,100円	1,300円
高校生	700円	900円

- ・中学生以下、障がい者とその介護者1名は無料。入館の際に学生証、障がい者手帳等をご提示ください。
- ・本展は事前予約不要です。混雑時は入館をお待ちいただく可能性があります。
- ・チケットの払い戻し・キャンセル・再発行はできません。購入の際はご注意ください。
- ・営利目的でのチケットの転売は固く禁止いたします。

本展のチケットで当日に限り同時開催の「浮世絵現代」(表慶館)と総合文化展(平常展)もご覧いただけます。

お得な前売チケット

蔦重展× イマーシブシアター 新ジャポニズム 前売セットチケット



東京国立博物館 本館特別5室で3月から開催する「イマーシブシアター 新ジャポニズム ～縄文から浮世絵そしてアニメへ～」の観覧券と本展のセット券です。一般前売券をそれぞれ購入するよりも300円お得です！

料金	3,400円(税込)
販売期間	2025年2月13日(木)～3月24日(月)
利用期間	特別展「蔦屋重三郎」： 2025年4月22日(火)～6月15日(日) イマーシブシアター新ジャポニズム： 2025年3月25日(火)～8月3日(日)

*このほかにもお得なチケットをご用意しています。各種チケットの詳細・販売場所などは展覧会公式サイトをご確認ください。

蔦重展 前売ペアチケット

本展の観覧券2枚セットです。ご家族・友人等とあわせてお越しください！

一般前売券をそれぞれ購入するよりも300円お得です！

料金	3,500円(税込)
販売期間	2025年2月13日(木)～4月21日(月)
利用期間	2025年4月22日(火)～6月15日(日)

蔦重展×大奥展 前売セットチケット



東京国立博物館 平成館で7月から開幕する特別展「江戸☆大奥」の観覧券と本展のセット券です。

一般前売券をそれぞれ購入するよりも400円お得です！

料金	3,400円(税込)
販売期間	2025年2月13日(木)～4月21日(月)
利用期間	特別展「蔦屋重三郎」： 2025年4月22日(火)～6月15日(日) 特別展「江戸☆大奥」： 2025年7月19日(土)～9月21日(日)

AUDIO GUIDE 音声ガイド

大河ドラマ「べらぼう
～蔦重栄華乃夢斬～」
蔦屋重三郎役
横浜流星さんが
音声ガイド
ナビゲーターに
就任！



写真・五十嵐隆裕(SINCO) © マクシム・ハラス

コンテンツプロデューサーとしての蔦重の生き様や、歌麿、写楽といった絵師をはじめとする作品の魅力をご紹介します。

貸出料金/1台：650円(税込)

*詳細は展覧会公式サイトにてご確認ください

AMBASSADOR 広報アンバサダー

大河ドラマ「べらぼう
～蔦重栄華乃夢斬～」
喜多川歌麿役
染谷将太さんが
広報アンバサダー
に就任！



喜多川歌麿作品も多数展示される本展。幅広い分野で活躍する染谷さんの多角的な視点を通じ、時には歌麿の目線で本展の魅力の皆様にお伝えします。